

## 協働事業評価・報告書（団体用）

事業名	アートを活用した新しい教育活動の構築事業
団体名	特定非営利活動法人STスポット横浜
協働の相手方	県民部文化課、教育庁教育部義務教育課、教育庁教育部高校教育課
事業期間	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

### 1 協働事業の進捗状況について

#### (1) 事業目標の達成度について

ア 協働事業の進捗状況を見て、所期の目的を達成することができたと思いますか。  はい  いいえ  
また、その達成度は何%くらいですか。 (100%)

イ 事業の受益者の満足を得ることができましたか。  はい  いいえ  
「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを下欄に記入してください。

年間の授業カリキュラムの進捗状況を勘案しつつ、受講した生徒に対してヒアリング、アンケート調査、レポート提出等によって適宜満足度をはかった。また、担当教員とは、授業後に内容を振り返る時間を設け、進行や内容などへの満足度の確認を行い、担当教員以外の学校長や教頭などへは間接的、直接的に満足度を確認する配慮をした。  
シンポジウム開催時には、参加者にアンケート調査をおこなった。

#### (2) 個別事業ごとの進捗状況について

個別事業ごとに、実績（目標の達成状況）及びその成果を下の左側の欄に、その実績及び成果に対する評価、またなぜそう評価したかの考え方を併せて右側の欄に、それぞれ記入してください。

事業 1-1	<p>〔事業名〕 アーティストによる授業実施事業</p> <p>〔実績〕 上半期の調査研究事業の結果、授業実施の用意が整い、下半期は後期の授業（10月開始）より、下記のように授業を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 実施校 ..... 4校  <input type="checkbox"/> 実施科目数 ..... 5科目  <input type="checkbox"/> 実施授業数 ..... 42回  <input type="checkbox"/> 受講者総数 ..... 97名  <input type="checkbox"/> 教員との振り返り（ミーティング）時間 ..... 33時間  <input type="checkbox"/> アーティスト講師・アシスタント総数* ..... 18名  <small>*コーディネーターは全ての授業とその振り返りに参加</small></p> <p>&lt;各校詳細&gt;</p> <p>■横浜桜陽高校『演劇体験Ⅰ』 自分の感性を刺激し、身体から出てくる言葉をもとに、演劇作品を生徒たち自身が作りだす展開となった。</p> <p><input type="checkbox"/> 受講人数 ..... 26名  <input type="checkbox"/> 実施回数 ..... 全10回  <input type="checkbox"/> 講師 ..... 明神 慈（演出家・劇作家）  <input type="checkbox"/> ゲスト講師 ..... 木並和彦（音楽家）  <input type="checkbox"/> アシスタント ..... 中島美紀、日下部そう</p> <p>■横浜桜陽高校『演劇体験Ⅱ』 演劇作品の共同創作を行う上でのポイントを「打合せ能力の向上」に絞り、他者との関係づくりのヒントを伝えていった。</p> <p><input type="checkbox"/> 受講人数 ..... 11名  <input type="checkbox"/> 実施回数 ..... 全12回  <input type="checkbox"/> 講師 ..... 夏井孝裕（演出家・劇作家）</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕 予測以上の高い成果を上げることができた。</p> <p>〔評価の考え方〕 ■学校との信頼関係の構築 当初は義務教育課程を含めて事業の計画を始めたが、実施対象を県立の新設高校に絞ることにより、事業の対象を明確化できた。さらに新校で表現分野に係る授業がある学校へアプローチした結果、4校5科目での授業実施が決定した。全国的にも珍しい試みであること、学校と当団体との信頼関係の構築から始めたことを考えると、初年度で実施できる授業数としては予測以上の成果と考える。 初年度の事業運営にあたっては、担当教員側との打ち合わせを時間をかけて綿密に行ったことにより、教育現場の中でアートの力を活かす意義について、絶えず討議を積み重ねながら進行していくことができた。</p> <p>■現状に即した予算配分 講師謝金の単価や実施回数については、学校のニーズや現状に即した見直しを行った。</p>
-----------	--	---

	<p><input type="checkbox"/>アシスタント……………久保田芳之、町田カナ、綾田将一</p> <p>■鶴見総合高校『パフォーマンス』 演劇的手法を土台に、より広範なパフォーマンスの世界を、ヒップホップダンスを通して、生徒たちに提示した。</p> <p><input type="checkbox"/>受講人数……………17名  <input type="checkbox"/>実施回数……………全9回  <input type="checkbox"/>講師……………柏木 陽(演出家)  <input type="checkbox"/>ゲスト講師……………香川亮(パフォーマー)、金崎敬江(俳優)</p> <p>■藤沢総合高校『言葉と人間』 書を通して自分を知ることにより、不自由に感じる日常を自由に楽しんで生きぬける力を得ることが授業の目的。</p> <p><input type="checkbox"/>受講人数……………26名  <input type="checkbox"/>実施回数……………全5回  <input type="checkbox"/>講師……………武田双雲(書道家)</p> <p>■川崎高校『演劇』 自分の身体と向き合うことの重要性を伝える。また、生きていくために必要な力としての演劇を探る。</p> <p><input type="checkbox"/>受講人数……………17名  <input type="checkbox"/>実施回数……………6回  <input type="checkbox"/>講師……………明神 慈、横山仁一(ともに演出家・劇作家)  <input type="checkbox"/>ゲスト講師……………木並和彦(音楽家)  <input type="checkbox"/>アシスタント……………中島美紀、日下部そう、早川紘生、金川周平</p> <p>〔成果〕 各学校のニーズを把握した上で、現場の教職員とアーティストとコーディネーターが授業プログラムづくりに取り組み、演劇やダンスや書を通じて、生徒の潜在的な能力を引き出し、他者との関係づくりのヒントを伝える授業を実施することができた。  なお、受講生たちの声(アンケートより抜粋)は次のとおり。  <input type="checkbox"/>ことばって難しい。自分の中で思っていることをことばにしようとしても、なかなかことばがでてこない。なんだか国語の授業のような感じまでする。  <input type="checkbox"/>台本をつくるって大変だ。けれども、いろんなことばを探すようになってから、感受性が豊かになった気がする。  <input type="checkbox"/> (アーティストは)先生っていうよりも兄貴って感じで話しやすかったし、言っていることを聞く気にもなれた。</p>	<p>■次年度以降の課題 その一方で、来年度以降、現在の授業数を通年で行うことや、さらに義務教育課程での事業展開を考えた場合、経費の増加やアーティスト、コーディネーターの体制強化が必要となる。 それを踏まえて、授業の方針・目的について、学校側が生徒に学んでほしいと考えていることと、生徒が得たいものが必ずしも合致していない状況で授業プログラムを考えていかなければならないことが今後の課題である。 来年度以降の新たな財源の開拓や事業のパートナーの検討が急務となっている。さまざまな行政の施策との連動や、民間団体のパートナーを探し、協働の可能性を探りたい。</p>
<p>事業 1-2</p>	<p>〔事業名〕 教育関係者への普及事業</p> <p>〔実績〕 夏期休暇を活用し、『先生のためのワークショップ』を開催した。  <input type="checkbox"/>期間……………8月25～27日/各4時間  <input type="checkbox"/>会場……………神奈川県立横浜桜陽高校  <input type="checkbox"/>講師……………明神 慈、横山仁一(ともに演出家・劇作家)  <input type="checkbox"/>参加者数(学校数)……………6名(5校)  なお、参加者の属性は、事業1-1でアーティスト講師の派遣を希望する新校の担当教員4人のほか、小学校教員1人、中学校教員1人。</p> <p>〔成果〕 演劇的手法を活かした授業の進め方を、講義・実技指導・ディスカッションを通して学びあい、参加した教員の今後の授業の充実に寄与することができた。また、参加者が情報交換を行い、教員間のネットワーク構築にも繋げることができた。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕 現状に即した成果を上げることができた。</p> <p>〔評価の考え方〕 ■教員との問題意識の共有 後期にアーティスト派遣を予定する学校の担当教員の参加があり、教員・アーティスト・コーディネーターの三者間で問題意識を共有し、信頼関係を作ることができた。 また、今後の事業展開が求められる小学校、中学校の教員の自発的な参加があり、来年度の計画に向けて有意義な普及活動となった。</p> <p>■ネットワークの拡大 今後、アートを活用した授業に関心のあ</p>

	<p>具体的には、実施後にアンケート調査では『今後の授業づくりに、具体的に活かすことができそう』（鎌倉市・中学校教員）などといった反応があった。</p>	<p>る教員等に対する普及に努めていくことが求められる。その一環として、教員間のネットワークをより大きく広げていくことが重要である。</p>
事業 2-1	<p>〔事業名〕 調査研究事業</p> <p>〔実績〕 上半期は、県立の新設高校（以下「新校」）への授業実施に備えて、教職員へのヒアリング調査や授業見学等のコーディネート作業を重ねた。</p> <p>□ヒアリング……………7校 □授業見学……………5回 □教職員との打合せ……………12回 □アーティストとの打合せ……………12回</p> <p>■既存調査の整理・研究 「表現分野に係る講師要望調査」を実施した上で、「学校基本調査」（文部科学省）「神奈川県青少年白書」（神奈川県）「横浜市青少年基本調査」（横浜市）などの既存の調査報告書から各種データを研究し、企画立案の参考とした。</p> <p>■県内の各学校への調査 当団体として独自に、アーティスト講師派遣に関する学校へのヒアリング調査を行った。 事業（1-1）の授業を受講した生徒に対しては、横浜桜陽高校『演劇体験Ⅰ』『演劇体験Ⅱ』では、後期授業の課題（レポート）提出と合わせて、感想を提出してもらった。藤沢総合高校『言葉と人間』では、実施後にアンケート調査を行った。鶴見総合高校『パフォーマンス』、川崎高校『演劇』については、実施後に口頭で感想を聞き取った。</p> <p>〔成果〕 協働事業内容に関連する各種調査を総合的に判断し、今後の事業全般の方向性を確認することができた。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕 今後の事業展開や長期的なビジョンの検討に活かすことができた。</p> <p>〔評価の考え方〕 ■ニーズ把握に対する効果 学校へのヒアリングを重視した結果、現場の状況および本事業に対するニーズ把握を多面的に捉えることができた。また教育現場のみならず、子どもと地域社会の関わりにおいても、アートを媒介にした様々な活動を考える契機となった。</p> <p>■他の個別事業との連携 既存の調査報告書の各種データを整理し、本事業の事後評価のためのアンケート調査の結果と合わせて、フォーラム事業の趣旨と討議内容に反映させることができた。</p>
事業 2-2	<p>〔事業名〕 フォーラム事業</p> <p>〔実績〕 平成17年2月11日に、シンポジウム「神奈川県+神奈川県教育委員会+NPO法人STスポット横浜『アートと学校教育の連携を考える』」を開催し、第1部ではビデオによる事例報告、第2部では課題の抽出と議論、会場からの質疑応答を行った。</p> <p>□会場……………1929ホール（BankART1929Yokohama） □パネリスト……………寺脇研（文化庁文化部長） 大沼安史（NPO法人教育改革ネット代表理事） 王尾富美子（県立横浜桜陽高校教頭） 吉本光宏（ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室長） □参加者数……………106名 □協賛……………松下電器産業株式会社</p> <p>〔成果〕 ■広範な層への事業アピール 事業1-1の実施事例報告を行い、現場の詳細な様子を参加者に伝えることができた。議論の中では、アートと学校教育の連携について、学校側の体制づくりの必要性やコーディネーターの役割について、パネリスト各氏の異なる立場からの意見を聞くことができた。参加者には、（1-1）の事例報告を含め、協働事業の概要を説明する資料を全員に配布した。</p>	<p>〔実績及び成果に対する評価〕 参加者の好評を得ることができた。また、県の担当者以外の行政職員へも事業内容を周知する機会となった。</p> <p>〔評価の考え方〕 ■多様な参加者属性 当日朝までの参加申込者120名に対して所属先の内訳は、次の通りである。</p> <p>□学校……………30% □NPO・任意団体……………22% □個人……………21% □行政……………13% □財団法人・社団法人……………7% □民間企業……………8%</p> <p>このことから、アートと学校教育の連携に対する、多岐にわたる分野からの関心があることがわかった。</p> <p>■県内外への周知 参加者の県内外の内訳を申込み時の所属・電話番号などから判断して分類すると、内訳は、次の通りである。</p> <p>□神奈川県内の参加者……………59%</p>

<p>また、実施後にアンケート調査を行い(回収率 19%)、『内容の濃いシンポジウムで大変参考になり、勇気もらった』(横浜市・40代・学校教職員)『アートを学校教育に取り入れることはまだ難しいようだが、期待している』(横浜市・30代・主婦)などといった感想があった。</p> <p>■主なメディアの反応など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 日本経済新聞(情報コーナー)</li> <li><input type="checkbox"/> 神奈川新聞</li> <li><input type="checkbox"/> 週刊金曜日(「金曜アンテナ」)</li> <li><input type="checkbox"/> 日本教育新聞</li> <li><input type="checkbox"/> 教育新聞</li> <li><input type="checkbox"/> ヨコハマ経済新聞(ウェブおよびブログ)</li> <li><input type="checkbox"/> CHILD RESEARCH NET(ウェブ)</li> <li><input type="checkbox"/> 社団法人企業メセナ協議会ニュース(ウェブ)</li> <li><input type="checkbox"/> IDEC 環境文化のための対話研究所(ウェブ)</li> <li><input type="checkbox"/> かながわ市民活動情報メールマガジン(メールマガジン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 県外の参加者……………35%</li> <li><input type="checkbox"/> 不明……………6%</li> </ul> <p>県内の参加者の内訳は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 横浜……………46人</li> <li><input type="checkbox"/> 伊勢原・秦野・平塚・中……………6人</li> <li><input type="checkbox"/> 小田原・南足柄・足柄上・足柄下……………4人</li> <li><input type="checkbox"/> 逗子・三浦・横須賀……………3人</li> <li><input type="checkbox"/> 相模原……………2人</li> <li><input type="checkbox"/> 川崎……………2人</li> <li><input type="checkbox"/> 厚木・海老名・相模原・大和・愛甲……………2人</li> <li><input type="checkbox"/> 綾瀬・鎌倉・茅ヶ崎・高座……………2人</li> </ul> <p>県外の参加者の内訳は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 東京……………30人</li> <li><input type="checkbox"/> 埼玉……………3人</li> </ul> <p>その他、京都、大阪、北海道、岡山、福岡などからも参加があった。神奈川県を取り組みに対する、県外からの関心が高いことがわかる。</p> <p>当事業に関する社会的認知をいっそう広める機会として、かつ、新たな財源を開拓するためにも、フォーラム事業は継続して開催することが必要である。</p>
--	--

(3) 社会的認知の獲得

協働事業の実施にあたり、どのようなメディアを活用して事業のPRをしたか、その代表的事例を1つ下の左の欄に記入し、また、協働事業の実施により、事業の社会的認知度が向上したかどうかを、右の欄にその理由と併せて記入してください。

<p>[PRの事例]</p> <p>文化庁文化審議会文化政策部会報告書「地域文化で日本を元気にしよう!」の中で、「課題2:文化以外の分野に「文化力」をいかに活用するか」の「方策3:教育分野との連携により、「文化力」を教育現場に活用する事例」として、協働事業の内容が掲載された。また、文部科学省Webページ上の報告書掲載事例一覧のページから、当団体のページにリンクが張られた。</p> <p>また、協働事業の事業(1-1)を主に紹介した記事「芸術で子供の『生きる力』育成支援」が2005年2月3日発行の教育新聞に掲載された。また、事業(2-1)のシンポジウムの後記事「アートと学校教育の連携を考えるシンポジウム開催」が同年2月25日発行の日本教育新聞に掲載された。</p>	<p>[社会的認知度の向上]</p> <p>文化庁文化審議会文化政策部会報告書に協働事業の内容が掲載されたことにより、事業内容について行政側の認知度を向上させる足がかりを得たと考えるが、広く一般の社会的認知度の向上を目指すためには、事業実施をしながら実施事例報告の場を積み重ねることがさらに重要と考える。</p> <p>財政的基盤づくりに繋がる社会的認知度向上については、従来、文化や教育分野のメセナ活動を展開してきた一般企業に対して、新しいメセナ活動のひとつとして本事業を説明し、理解を得ることができ、次年度の企業協賛に結びつけることができた。</p>
---	---

(4) 新たなネットワークの構築

協働事業の実施により、新しいネットワークが構築されたとしたら、その内容を具体的に下の左の欄に記入し、このネットワークを今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかを右の欄に記入してください。(新しいネットワークの構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。)

<p>[ネットワークの具体的内容]</p> <p>■アートを活用したアウトリーチ活動を積極的に行っている県内の文化芸術団体(財団法人神奈川芸術文化財団、財団法人横浜市芸術文化振興財団)の教育普及担当者など、地域文化施設とのネットワーク。</p> <p>■県内で表現教育を推進してきた「横浜ふね劇場をつくる会」や、学校でアーティストによる授業を行っている「特</p>	<p>[ネットワークの活用]</p> <p>■地域文化施設のネットワークを利用し、文化施設と学校が連携し、地域の教育力を学校現場に活かせる環境づくりへつなげようと考えている。</p> <p>■学校とアートをつなぐ団体とのネットワークを通し、文化芸術領域における教育力の存在を広く訴えていきたい。</p>
--	---

<p>定非営利活動法人芸術家と子どもたち」などとの、学校とアートをつなぐ団体とのネットワーク。</p> <p>■神奈川県高等学校演劇連盟、横浜市高等学校演劇連盟、横浜中学校演劇研究会など、県内の学校教員が牽引している団体とのネットワーク。</p> <p>■メセナ活動の視点から学校とアートを考える企業とのネットワーク。</p> <p>■県内の教育 NPO や市民団体などとのネットワーク。</p>	<p>■県内の学校教員が牽引しているネットワークを通じ、実際の学校運営の実情を理解した上で、様々な事業展開の可能性を探っていきたい。</p> <p>■企業とのネットワークをより強固なものとし、安定的な事業展開を図るための資金、物品、人材面での支援を、当事業に利用できる開かれたシステムとして成長させたい。</p> <p>■教育 NPO などとの連携を通して、アートを活用した新しい教育活動のための持続可能なシステム構築につなげたい。</p>
--	--

(5) 県の施策等への影響

協働事業の実施により、職員の NPO に対する認識の変化や、県の施策に対する影響があったと思われることがあれば、その内容を具体的に下の左の欄に記入し、それが今後の協働事業の継続・発展にどのような影響があると考えているかを下の右の欄に記入してください。(認識の変化や影響はなかったと思われる場合は、この欄への記入は不要です。)

<p>[影響の具体的内容]</p> <p>行政と NPO が対等に協働する中から、文化と教育をつなぐ領域の事業の有効性が確認できた。</p>	<p>[事業の継続・発展への影響]</p> <p>文化施策と教育施策の接点を見極め、既存のシステムをより発展的に活かすための提案をおこなうことができる。</p>
--	--

(6) その他

上の(3)から(5)に挙げた項目以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがある場合は、下の左の欄に記入し、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているか、右の欄に記入してください。(特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。)

<p>[成果のアピール]</p> <p>多くの学校関係者と状況を率直に話し合う地点から事業を開始することができた点も成果として数えられる。</p>	<p>[事業の発展への貢献]</p> <p>地域の教育力を学校に活かしていくという視点を持った様々な団体と、開かれた学校づくりを目指す学校との間に多様な接点を生み出すことにより、事業の発展を目指したい。</p> <p>同時に、教育・文化の両方の側面から事業成果を確認していくことによって、学校と地域の教育力の連携を持続可能なシステムとして確立し、神奈川県から、日本全国の教育・文化に新たな風を吹き込みたい。</p>
---	---

2 協働事業の管理状況について

この半年間の協働事業の進め方などに関して、次の質問に、はい、いいえでお答えください。

- ア 協働事業の進捗状況は適切に管理できていましたか。  はい  いいえ
- イ 協働事業の実施に伴う収支は少なくとも月単位で整理できていましたか。  はい  いいえ
- ウ 協働事業の実施に関する情報は団体の理事会等で共有されてきましたか。  はい  いいえ
- エ 協働事業の実施に関する活動記録は速やかに整理するきまりになっていましたか。  はい  いいえ
- オ 協働事業の実施にあたって、団体内部の役割分担は明確でしたか。  はい  いいえ

上のアからオまでの項目で、「いいえ」と回答したものがあつた場合、なぜそうなっているのか見解を示し、併せて今後の解決策をお示しください。

### 3 県との協働についての評価

(1) この1年間の県との協働の進め方に関して、次の質問に、はい、いいえでお答えください。

ア 協働事業の実施にあたって、団体と県とは必要な情報の共有ができていましたか。  はい  いいえ

イ 協働事業の実施にあたって、団体と県とはそれぞれの役割を果たしましたか。  はい  いいえ

ウ 全体として、団体と県とは対等の立場で協働ができましたか。  はい  いいえ

どのような場合に対等と感じたか、あるいはどのような場合に対等でないと感じたか、それぞれ下の欄に記入してください。

県民部文化課、教育部高校教育課、教育部義務教育課の三者と当方の異なる立場の視点を活かしつつ、事業の進め方や成果について課題を抽出し、対等な立場で検討を重ねる場において、県と対等に協働していると感じられた。

エ 協働事業を一緒にやってよかったと思われましたか。  はい  いいえ

(2) 県との協働の取り組みについて

県と協議した役割分担に基づき行った協働の具体的な取り組み及びその成果について下の左の欄に記入し、右の欄には、その成果に対する評価を記入してください。

<p>〔協働の取り組み〕</p> <p>■事業 1-1: アーティストによる授業実施事業          ST スポット横浜… 総合高校を中心とした県内の学校との連絡調整および授業の企画          文化課…………… ST スポット横浜と県の連絡調整(各事業共通)          義務教育課…………… 企画への助言          高校教育課…………… 総合高校を中心とした県内の高校との連絡調整</p> <p>■事業 1-2: 教育関係者への普及事業          ST スポット横浜……………事業の企画、開催          文化課…………… 募集等広報          義務教育課…………… 企画への助言、募集等広報          高校教育課…………… 企画への助言、募集等広報、会場提供</p> <p>■事業 2-1: 調査研究事業          ST スポット横浜……………教育・文化芸術関連の各種資料の整理及び調査研究          文化課…………… 文化芸術関連の各種資料の提供          義務教育課・高校教育課…………… 教育関連の各種資料の提供</p> <p>■事業 2-2: フォーラム事業          ST スポット横浜……………事業の企画、開催、パネリスト等との連絡調整          ちらし作成と広報、参加者申し込み受付、会場整備          文化課・義務教育課・高校教育課……………企画への助言、広報協力</p> <p>〔協働の成果〕</p> <p>■事業 1-1: アーティストによる授業実施事業          【高校教育課】【義務教育課】より学校の現状について説明を受けた上で【ST スポット横浜】が総合高校を中心とした県内の学校との連絡調整および授業の企画を立案した。企画進行中も【文化課】が随時、各課との連絡調整をはかり、事業全般の情報共有の核となった。授業実施にあたっては、各高校との協議・調整を【高校教育課】がサポートした。</p> <p>■事業 1-2: 教育関係者への普及事業          【ST スポット横浜】が事業の企画を立案し、アーティストとの連絡調整を行い、【文化課】が募集等広報 1,600 枚の募集ちらし印刷を行った。【義務教育課】および【高校教育課】は、募集ちらしを県内の各学校に逡送便で配布した。</p> <p>■事業 2-1: 調査研究事業          【ST スポット横浜】の求めに応じて【高校教育課】が本事業のニーズ調査</p>	<p>〔協働の成果の評価〕</p> <p>本事業を協働実施している県の教育庁教育部【義務教育課】【高校教育課】および県民部【文化課】は、いずれも「かながわボランティア活動推進基金 21」の「協働事業負担金」事業の過去の担当事例がなく、また各担当部課間の事業レベルでの連携も少なかった。そうした状況から【ST スポット横浜】と対等の姿勢で事業実施に向きあい、初年度から順調に事業が滑り出したこと自体が、大きな成果だと考えている。</p> <p>また、下半期のフォーラム事業の実施において【ST スポット横浜】が立案し【文化課】と【義務教育課】【高校教育課】が助言をし、企画を具現化していく過程、当日の会場整備や進行の現場を共有したことにより、特に事業(1-1)の意義や課題についての認識度が向上したことが、次年度の事業展開に繋がる大きな成果となった。</p>
--	--

(「表現分野に係る講師要望調査」)を実施した。また、【文化課】【義務教育課】【高校教育課】は関連の各種資料を提供した。それを受けて【ST スポット横浜】が各種調査研究(「アーティスト講師派遣に関する学校へのヒアリング調査」)を実施した。

■事業 2-2: フォーラム事業

【ST スポット横浜】が事業の企画を立案し、事例報告のビデオの編集、パネリスト等との連絡調整、会場の手配、広報用ちらしの作成、当日配布資料の編集を行い、【文化課】が広報用ちらしを 18,000 枚、県内文化施設等に配布し【義務教育課】および【高校教育課】は、広報用ちらしを 9,000 枚、県内の各学校に逡送便で配布した。シンポジウム当日は、【ST スポット横浜】【文化課】【義務教育課】および【高校教育課】がともに、会場整備やパネリスト、参加者の対応にあたった。

#### 4 協働事業を継続する上での課題とその対応策

来年度以降の事業実施にあたり、事業頻度の増加に対する財政的、人的な対応策を講じる必要があるため、事業の円滑な運営と並行して企業協賛などの資金調達の取り組みを重視する。また、外部とのさまざまなネットワークを広げ、事業の新たなパートナーを開拓する。

#### 5 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

5 年間にわたる行政との連携をもとに、アートを活用した新しい教育活動に関するさまざまな情報提供をはじめ、人材養成、派遣、普及を担う持続可能なシステム体系を整備した上で、本事業の中核となるアーティストによる授業実施事業のシステムを持続させるための調整機関としての役割を果たしていきたい。